

喜連川家書札禮  
喜連川頼氏文書案



荻野藏

可憐清書院

諸門跡  
座主衆

一 蓮院

握井院

妙法院

檀那院

昆沙門堂院

淨土寺

墨崎院

竹内院

以上

此清人教所之清書と符  
老いやは内墨崎院并内院  
兩院へて未放清書但此内書  
道院握井院清書内書と  
内書内書也恐惶清書と  
此内書と墨崎院と真子可書

拙い文章と申しあはれ其  
の書くる旅長と云事又  
可成るく死所とも真実と  
とあうやう可書くは方々  
御存判とし墨考くは也  
よつて此聊公に不書く也

一 清家

聖護院

大覺寺

勸修寺

心と

勸修寺と云はて以下旅長  
と云ふ事必ずと云ふ是と  
も文章に字墨くはる事

の書可指宛所は坊友不  
とてして之を之思拒縁と  
必兼と深墨墨は真子寺書  
也は内勸修寺に之はして  
石ては法堂既欵不可准自  
余但随時可依時淺くは言能  
可と分別

一 若王寺

定法寺

真光院

聖光院

大業院

日教院

下河原教

号二業院

心と

浄土人教へんを説くとてよく  
寺号院号浄土宗教の大概  
文章ならして心で読みよく  
心は是も其人の心とて書き  
墨を改めて心可書之とて  
死すとも墨とてよく真よ  
の書け方の名判の墨黒  
よて有る

一 執柄家 一條教

関白因大閣 鷹司前  
関白教

二条前攝政教 攝政とて君所功雅に付所  
成なるをまつりてとて教

しとて禁裏をまほ  
給物や 九條教

近衛教

以上 近九二一

右此浄土教へんは二の浄  
土の文章の字いづれも地  
はく真よとて墨黒よ赤長  
とて文章必ずよくとて書  
る亦真よとて墨黒よく書  
けり可なり故落とてとて  
思惟薄之ぬ此四年とて  
墨とて改く可書く

一 公卿之衆并教上之教

日野初之教 同鳥丸教

同廣橋殿 同柳原殿

同町殿 望

此市方之ハ日野何致何  
一殿とつこち、法く、  
多く真之を之く進説と  
有之ハ外を市、も不、  
法飲市、て不可、  
又、うを法、  
只、  
一、

久我殿 花山院殿  
極古寺殿 西園寺殿

三条殿 宇條殿

又條殿 山科殿

花野井殿 西同院殿も、  
又柏本殿も、

教田殿 置も、 中津門殿

綾小路殿 庭田反も、  
源氏

吉田殿 中山殿

坊城殿 志直家、  
伊勢國司の

兼室殿 物尾屋殿

右津川殿 韋波殿

甘露寺殿 菊池殿

姉小路殿 藤、  
同司 藤殿 長

將清福三条殿 花町殿

心

大略也。死而して之の皆を  
説く。一は思ふ事之を  
は内想別不可貴。既人教  
よりして其能可有分  
候。此内又書は。一は  
是は。戸人。其意也。以  
可。亦。亦。以。候。為。時。大。概  
必。以。但。時。節。より。お。遠。可。を  
之。後。仁。以。言。能。一。は。分。別。也  
右。以。系。之。藏。之。清。人。教。之  
の。後。接。も。也。り。余。も。准。之

但之候に候可お清教

一御相伴之處

菅領右系左系 治部大捕教武部

一色左系右系教三系

山石左系曾入道教全吾右の

畠山左系信教大系右の

三藏者左系。小路名との我

と。多。は。也。を。説。も。を。と。は

とも。後。接。より。也。但。清。藏。御。持

子。寺。時。に。家。者。より。余。も。清。人。教

より。一。は。清。藏。御。持。清。藏。信

持。之。候。も。り。余。も。清。人。教

きしんと致しても不苦欵三  
減の亦心下の清相伴人とも  
苦しきと云ふと云ふは之を是と爲  
と云ふ新巻と云ふ可成地  
歎息思ふれども賞歎也云々  
とき大概の事也是云々の  
りや是とも書札中の秘り也  
努力不可成外足當ると云  
ゆ汚穢の事如此れを別々  
の肝書作

一 國持府 細川阿波守  
因刑の掃取 因音の捕取

因法路守 山名相摸守  
因兵部少輔 因七郎  
土岐義隆守 義隆同土岐守  
佐々木大膳太左衛門 大角守の事 免丸  
大田忠重守 大田守の事  
武田大膳太左衛門 富樫守  
赤松次郎清和守 赤松守の事  
上杉民部大輔

心工

此方より大略をいれ也  
も可成之打付書と云ふをい  
とも是は其汚宿所とも我に付

のしそ只名字沙比と申也乞  
二下やと書さるる也

一 細川有友道友 同下野八道友

赤松有持入友 山名伊豫友

山名孫三忠友 山名孫三如勝友

作本馬淵智孝友 市本鞍智孝友

細川民部補友 以上

南時をき人絶句も自家書並

らものころ方此此方へと

背の色を比とあるは之略打付

書も可なり南時を清貴殿

二為別 恒之段歟

一 清佐之在次申不同

細川有補友 一色有友補友

赤松有補友 同有友補友

上野有友補友 山名有補友

大飯有友補友 山名七郎友

富樫有友補友 名山有友補友

同有友補友 伊豫有友補友

伊豫有友補友 同有友補友

同有友補友

以上 是れ南時解と云ふ也

は方人主略打付書らるるは  
もはしと申す可なり別歟



一 妻形之亦云方按御封者之妻  
よわくはく也

一 妻 細川凌洛者久

二 妻 橋井元京者久

三 妻 龜山惲广者久

四 妻 畠山中誓五捕者久

五 妻 大銀下總者久

以上又妻

此方之云所打付書者久

以是之云一甲人可立之但

依時或可隨時也

一 敵中 中次之妻

一 妻

大銀無座助者久 畠山惲廣者久

同中誓五捕者久 上野中誓五捕者久

二 妻

伊勢兵庫助者久 同肥前守者久

同備前守者久

三 妻

伊勢守者久 同土師左衛門者久

同下總守者久

以上

此方之云二方打付書者一者人

と云ふ事也

此方より

一 清造より光等より付い

も安子より小可より也石友

沙古より也

一 山門傳節

松生

上林房

亮補坊

護国寺院

宗蓮坊

福光坊

以上

可の付付より

一 奉川方より事右筆方

飯尾藤公より布施下野守より

斗笠遠江道友

引付

此方信濃より友松田丹波守より

以上

此方より付書也

一 幽和閑院 一 信平閑院

一 地方より 一 神本より

一 紛失方 同注取也

一 幽西方 伊豆守より

一 西帯方 笠原殿より

以上

一 清前方奉引より事

松田丹後守秀興  
飯尾義清守貞有  
清和胤守貞秀  
飯尾大和守元運  
布施下野守英基  
布施但守八道運秀  
清成守備中守秀教  
母友上野守秀基  
飯尾近江守任運  
清成郡守左守定  
飯尾守郎在馬場内修

松田冬前守貞康  
流方左守將監貞通  
松田射守守教秀  
飯尾左守清回清房  
中津掃守左守之德  
飯尾左守左守之德  
松田守郎在馬場内修

以上廿九人

是等皆為討之奉引人也此圖  
（在書判紙と如右也所也）

一尋常書札事立文二圖  
必、石、所、可、有、之、勝、人、也

るべきを、但し又成るも  
而もく、面よりして右に  
（双）と記す、其の書は、  
後とて、書とて、あり、  
し、き、通、法、の、改、也、思、惟、書、と  
す、い、る、及、其、他、は、又、其、故、と、相、言  
ふ、其、の、字、も、真、に、可、書、判  
形、か、よ、の、事、も、尚、疑、い、ま、え  
ら、る、よ、あ、ら、ま、く、あ、ら、ま、く、

一 披瀝書は、付、右、の、主人、の、と、不  
可、書、作、て、好、書、さ、し、と、書、時、い  
主人、と、直、に、ま、る、と、く、

一 進上書は、その、進、取、の、事  
主人、の、と、直、に、ま、る、と、く、  
も、書、也、

一 漢上書之、事、漢上、是、上、書  
也、何、う、及、う、し、付、也、及、進、取  
判、う、小、名、字、名、判、

月日

漢上、是、お、の、書、抄、也、何、う、及  
一 東、紙、認、取、之、事、久、の、神、ひ、  
と、て、別、の、身、と、一、牧、是、て、其、徳  
上、卷、と、漢、上、は、尚、疑、之、文、也  
漢上、書、の、も、是、漢、と、進、上

書も認也此神子一牧之紙  
子之字も一の紙一筆は迄事  
と云ふ也又別の子もも也大  
概は海也

右の二卷安富勸解申九衛門  
尉之威為後生依作調進之  
本也以想一段中本寫並  
之也更之石之不見比老  
也

文明本の<sup>し</sup>首月卷勸撰  
早

多食養寺中一り之海世教  
海子の段梅安宮引新無  
境之間可<sup>る</sup>之河法之申作  
也<sup>し</sup>念悔先地款<sup>し</sup>之云致  
右節<sup>し</sup>之入立故本也古由<sup>し</sup>  
与<sup>し</sup>之亦作<sup>る</sup>申<sup>す</sup>作<sup>る</sup>都<sup>る</sup>之<sup>し</sup>海<sup>す</sup>

丑月也 勝元

富山尾張古友

落<sup>る</sup>之申<sup>す</sup>申<sup>す</sup>引<sup>る</sup>之故<sup>る</sup>  
比<sup>し</sup>之<sup>し</sup>可<sup>る</sup>子<sup>の</sup>由<sup>り</sup>申<sup>す</sup>作<sup>る</sup>目  
也<sup>し</sup>之<sup>し</sup>海<sup>す</sup>

丑月也 勝元

薄之今川友

御寄位之杖取以の太刀一腰助則

弓一足黒印雀目控二子之短杖八印雀目控

一腰弓十張等々印雀目控

信之薄之

十一丁一廿丁勝元

小笠原友

上横黒毛馬正印雀目控同若横

清羽一腰馬正黒毛市進上目印雀目控

別之杖取以の目 上横清書并

市太刀一腰信房一腰魚一枚堆紅

下市目目之短杖又弓正黒毛印雀目控

弓十張等々印雀目控以の短杖八印雀目控太刀一腰

弓十張等々印雀目控以の短杖八印雀目控太刀一腰

二十丁之薄之

十一丁一廿丁勝元

白川澤田友

今度お存之之城一歳責入之

中は是より別連上関小忠節

之玉神妙志也之等々

十一丁一廿丁勝元

香川傳助友

田村武了友

大倉六郎友

今度お鷹の倉と城跡次郎子及  
之由江を以神妙の由途と申  
改在申ア好又申すも同改有き  
申つてくは

ナアリ世帯 徳元

井内浦坂の石

後未作得と事 進し以上先可  
を申下向申在仲御方と今申  
与山石赤松法合位経中と文  
申す水川一雨註一途といふ程  
申比呂あ甲搦井 面と加法現  
之改改落置さすも同前法

少流いとこの持れけし志以そ産  
池かアツたやと取れは勳産西定  
の心使志と申比子と申談合の目形  
を申降く

五月二日 徳元

畠山友

一兵友

去るる車と合戦新見見身  
持力命向昔方と申不意成  
生捕早被寛宥と余之代未  
聞人等志ふてと今以坂  
の右刀一腰 友成 志しあ申志

下熊野<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>

十<sup>ノ</sup>七<sup>ノ</sup> 勝元

お居久

一連暑<sup>ク</sup>時<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>筋<sup>者</sup>之<sup>ク</sup>  
判也奥<sup>次</sup>牙<sup>賞</sup>筋<sup>也</sup>死<sup>而</sup>名<sup>不</sup>  
口<sup>次</sup>牙<sup>賞</sup>筋<sup>也</sup>上<sup>と</sup>下<sup>と</sup>死<sup>而</sup>名<sup>不</sup>  
口<sup>次</sup>牙<sup>賞</sup>筋<sup>也</sup>下<sup>と</sup>名<sup>不</sup>賞<sup>筋</sup>之<sup>ク</sup>  
一人<sup>書</sup>也<sup>書</sup>札<sup>先</sup>柄<sup>と</sup>書<sup>ハ</sup>魚<sup>也</sup>  
也<sup>先</sup>人<sup>看</sup>と<sup>書</sup>以<sup>才</sup>之<sup>ク</sup>一<sup>書</sup>  
精<sup>手</sup>と<sup>相</sup>其<sup>坂</sup>山<sup>と</sup>物<sup>手</sup>坂<sup>河</sup>の<sup>物</sup>  
物<sup>手</sup>坂<sup>河</sup>の<sup>物</sup>先<sup>鳥</sup>と<sup>書</sup>其<sup>次</sup>  
臭<sup>と</sup>書<sup>也</sup>

太刀一腰 刀一腰

刀一腰 太刀一腰

乞<sup>ハ</sup>取<sup>換</sup>之<sup>書</sup>也<sup>馬</sup>も<sup>毛</sup>と<sup>印</sup>

と<sup>ハ</sup>印<sup>中</sup>一<sup>書</sup>也



一 執柄家 何太政大臣家  
関白家

近衛殿 九条殿

二条殿 後光嚴院殿  
御拾 一条殿

鷹司殿 近衛殿御一家  
光明寺殿御子三人

以上攝家五人

一 王孫宮

伏見院殿 常盤院

木寺殿 遠州御座

一 清花衆八人

西園寺殿 徳大寺殿

花山院殿 菊庭殿

久我殿 村上源氏  
洞院 絶

轉法輪三條殿 大炊御門殿

左大臣右大臣内大臣被任御人

數近代三條殿 同前

一 公卿衆

勸修寺殿 日野殿

中御門殿 勸修寺  
坊城殿 菅家人

一 當將軍義晴公御代御相伴被奉  
人數之事

佐々木弾正少弼定頼 管領細川右京大  
夫高田之以取成

正九年為上洛於本能寺御成被申上御相伴被奉也  
雖然御相伴被奉莫斗角非規摸欽其故如何  
幸多天皇第三御子敦實親王未孫也幸多第一御子  
醍醐天皇申 御門 御座此御宇 近江 佐々木成頼之  
代直被下早院宣在于今云云又佐々木源三六条判官  
為義養子源三香義云云 曰佐々木家義字用判

香義嫡男佐々木大郎東經右近衛大將賴朝為習在鎌倉  
佐々木次郎東軍於富士河討死又木曾追討之時令兄  
東經為名代四男佐々木野木四郎高經治河渡又西國  
平家追討時令兄東經為名代三男佐々木加地三郎盛經  
藤原渡先年伊豆國山木判官兼高謀叛時東經廣定  
為先懸討之相山合戰賴朝虎宣感忘秋木掛置賜ケルヲ  
高細取賴朝奉又於洛中相津大郎兼高謀叛時廣定  
嫡男佐々木五郎判官兼經為先懸討之其時年細掛津國力  
外正給於佐々木家度致忠節東經自中多夫事九代  
也信綱廣定十代也兼經氏信高信十代兼經六角云氏信  
京極云六角佐々木惣領也京極殿子也廣定号馬淵号  
高信高信號中車經号大原云

### 武田大膳大夫

若被國守護也是曾光院殿御代  
為安藝武田名代上洛其砌也堀川

殿被背上意生涯之時先懸而一也殿討依之為御恩賞若  
被下軍甲斐國武田惣領其次安藝武田其次若彼武田  
也雖然甲斐武田云在國御相伴不被奉問家位若彼武  
田可為上是則先忠非忠以當忠為忠云々是御相伴被奉  
時彼時諸奉公面スエミキ由就被申高國以御取成細  
川末同名人被膳云々ト云々

### 細川右馬頭殿

是御鈿役人也御成時公方様  
御膳スエ被申人也依之御相伴

衆被成云其聞斗也二度御相伴不奉也細川殿管  
領職御持時右馬頭殿細川家名代也

### 佐々木四郎義賢

先規申上御字被下畢  
近江於觀音寺御成被申其

時彈正少將建頼同四郎兼賢父子共御相伴被申畢先代未  
聞面目多四郎任先京大夫云

### 朝倉彈正左衛門尉

是武衛家老也越前國取  
以後御臺奉公者罷成二

三代以右公方奉公為巡撫然大鎧左衛門佐殿以取成御相  
伴衆被召如畢實為末世乎是聞斗也膳スエテア  
ルマシキ聞一度御相伴不奉也

### 一當將軍御代御供衆罷成人數更

### 佐々木大原中務大輔高保

是省彈正少  
弼舍弟也然

大原大郎判官為遺跡

### 土岐五郎殿

土岐次郎殿舍分ノイニ殿ト云

### 佐々木朽木民部少輔

是佐々木ヲイテハ  
未末也雖然近江國

高嶋郡朽木云山家被移御座被成御越年依其  
被成御供衆沈佐々木同名朽木上雖在多如此實果  
報ル者也

長格九年五月廿日

御書安三角張

江戸

中揚々し又力折成ぬ

進上

御方

一腰

御馬

一疋

コト

九馬頭

頼茂

方ニ重克遠海ノ中ニ来

テシヨウノ何カノ来者ニ往

能中入以似一の福牛

流礼ニ言自己其ノ来者

内ニ来テ中ニ其ノ来者

何角ニ以信ノ者ナリ

委細トシテ其ノ来者

能具ニシテ其ノ来者

九月

九馬頭

其来者

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

御地...  
御地...  
御地...

かきつて

七しりて下

女及仲流の事

録

急な存心丸

唐列漢書の所記

しるし

多し

初め

七

任

日

一

日

一

一

一

無

あしはしそききしむそき  
あしゆりたふしあふれあ  
府て下知物氣あそき  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ  
あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ

あしゆりたふしあふれあ





多意心持たし九思心

志字にハ初め余と云のハ

由に集巻三十一に由ら

持持し心ヤ中世ハ遠慮

ハ心<sup>次</sup>所ハ一語ハ心ハ

新の志を<sup>追</sup>未細也二十

二言<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ破見<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

方<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

持持ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

一<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

多意心持たし九思心

志字にハ初め余と云のハ

由に集巻三十一に由ら

持持し心ヤ中世ハ遠慮

ハ心<sup>次</sup>所ハ一語ハ心ハ

新の志を<sup>追</sup>未細也二十

二言<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ破見<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

方<sup>如</sup>之<sup>主</sup>ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

持持ハ心ハ<sup>如</sup>之<sup>主</sup>也

おのまゝの理を以て新  
時流を以て下文  
蠟燭を以て也

元和年  
八月廿日御判

女五上御書

瑞手くかられし一  
まゝのまゝのまゝの  
心持とドク推みこ  
まゝのまゝのまゝの  
おのまゝの

ありのまゝ  
御判

ち井五御書  
酒井御書

瑞午のわが能代はす  
宜くしてゆくは素人  
山崎と下り相又  
名に淡く多行  
ゆふか 毎朝  
のぬれりて  
正

ありまを 山崎

可也とあや  
安を耐らる

くあつてはとす  
瑞午のわが能代はす  
宜くしてゆくは素人  
山崎と下り相又  
名に淡く多行  
ゆふか 毎朝  
のぬれりて  
正

ありまを 山崎

可也とあや  
安を耐らる

是式  
親手  
在  
權  
一  
般  
也

急度心傳志了合  
無心可系心身如  
杖上平人法書  
法心見り  
伊の揚名抄  
石上平一十  
高心外  
と

予心傳者一々  
右之旨も知らん  
指し示す如く  
事細くも志坐り  
是に平し君之  
早く之に候

七月十八日刻

女由氣抄

あか野守了成

土野大和守

武  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

志  
志  
志  
志

万々先心付る事  
 の事先に端端  
 珍之也言今  
 次々先に  
 我の上先に  
 志途の思先ひ

七月十日

由井雄平

万々心付る事  
 の事先に端端  
 珍也今  
 次々に  
 我の上  
 志途の思ひ

之文之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子  
之部 子 之部 子

七月十日

七月十日

七月十日

七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日

七月十日

七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日  
七月十日

のひりや年  
早書して礼をせん  
所をたつた所を  
何とせんか  
神の御心  
申すに  
於て  
雨井

申す

先  
相  
疾下なり人  
此の如く  
折下  
早書

早書

早書

雨井







也亦可有物也 三戸托  
 了年所云云 物等處云  
 口口口口口口 高氣氣氣  
 山山山山山山 橋橋百扶物也  
 入江江江江江江 十江江江  
 中江江江江江江  
 方方方方方方 省方  
 若若若若若若

口口口口口口口口

酒井新書

本  
 信平しつれゆへ 公事百見  
 了向方云云 九先書云云 事  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事

酒井新書

然其其其其其其 其其其其其其  
 了向方云云 事  
 了向方云云 事

新しき百五丁下解  
心より来り候と云  
つ合ひ、より丸巻二  
枚通へ下候と云々  
此の如く候と云々  
酒井部

酒井部

酒井部

此の如く候と云々  
物、此の如く候と云々  
酒井部

酒井部

酒井部

酒井部

酒井部

酒井部

酒井部

然保名をふし九物名  
河内橋三石方夜三石方  
所々河内自紅まて三喜  
つ夜々河内三石方打  
つ合ふとふ九物三喜  
迄三石方三喜  
三喜

古井古物版

古井古物版

然保名をふし九物名  
河内橋三石方夜三石方  
所々河内自紅まて三喜  
つ夜々河内三石方打  
つ合ふとふ九物三喜  
迄三石方三喜  
三喜

古井古物版

古井古物版

然保名をふし九物名  
河内橋三石方夜三石方  
所々河内自紅まて三喜  
つ夜々河内三石方打  
つ合ふとふ九物三喜  
迄三石方三喜  
三喜

古井古物版

古井古物版

以上兩卷于爵足利於其  
藏本ヲ影字ス  
明治三十二年六月  
昭和八年十月影本ヨリ字ス



